

バドミントンのショートサービスとロングサービスはどちらが有効か ー女子シングルスにおいてー

Which is effective for short service and the long service in women's singles of the badminton?

1K04B075-2

木村 咲絵

指導教員

主査 関一誠先生

副査 矢島忠明先生

目的

I. B. F (国際バドミントン連盟) は2006年5月6日、第26回年次総会において従来のサービス権あり15点制から変更し、ラリーポイント制の導入を全会一致で正式に決定した。これからは、サービスでミスをしたら即失点となる。流れを奪うためにはサービス権をとったときに連続ポイントをあげなくてはならない。

バドミントンのすべてのラリーはサービスから始まる。ルール改正前までのシングルのサービスは、より高く、コート奥まで打つことで、相手からの返球の勢いを少なくしていた。ルール改正後のラリーポイント制になってからは有利に運ぶために、簡単に相手に攻撃させないショートサービスを打つ選手が増えてきているように思われる。そこで、プレーの印象や試合の結果からではなく、ゲームの中の細かく数値化されたデータから、ショートサービスとロングサービスのどちらがポイントできる確率が高いのか、それに加えどのようなゲーム展開をしたら勝機を見出せるのかを検討したいと考え、この研究を行った。

方法

二年に一度世界各地で行われるバドミントン競技の国別対抗世界選手権の大会であるトマス杯・ユーバー杯が2006年日本で開催された。その時の日本対オランダ戦、中国対オランダ戦の女子シングルのDVD画像を使用し分析を行った。また、2007年11月13日から代々木第2体育館で行われた全日本総合選手権に実際に出向き、女子シングルの試合のデータを取った。試合は無作為に選んだものである。

計7試合分のデータを様々な角度からグラフ化して考察を行った。

結果と考察

1ゲーム内において流れが変わる可能性の高いポイントは11点のインターバル(90秒の休憩)の後であると考えられる。11点までリードしていたとしても、その後一気に逆転されたり追いつかれたりしているパターンは少なくない。それに加え、相手の連続ポイント

をいかに抑えるかもゲームの勝敗を大きく左右している。各ゲームの勝った選手と負けた選手の連続ポイントを比較してみると、勝った選手は6連続ポイントや5連続ポイントが何度か見られる。負けた選手は4連続ポイントまでにとどまっていることが大多数であった。

ほとんどの選手がロングサービスを主体にしてゲームを組み立てている。これは、体力的な問題も密接に関係していると思われる。ショートサービスを使用した場合、次の返球もロングサービスを使用した場合に比べて速く自分のコートに戻ってくる。また、ショートサービスは初球を相手にネットより下から打たせることができるため、サービスをした方の選手は攻撃的なラリーがしやすくなる。ただ、攻撃をするということはジャンプをしたりスマッシュを打ったり自ら速い展開にもっていくため、体力の消耗が激しい。21点を2ゲーム先取するためには体力の配分も上手く考慮しなくてはならないため、ロングサービスからのラリーの組み立てが多いのだと思われる。

結論

15点サービスポイント制から、21点ラリーポイント制にルール変更したことによるショートサービス率の増加は、私が想像していたものより小さいものであった。これには、体力的要因が大きいと考えられる。男子に比べると動きのスピードやスマッシュの速さが劣る女子は、決め球と呼ばれるエースショットの決定率も低いいため、自然と1ラリー1ラリーが長くなる。また、ショートサービスとロングサービスのどちらが有効かということについては、ほぼ差が無いものと言える。それよりも、いかに相手に連続ポイントをさせないかということが勝敗を左右していると分かった。ロングサービスやショートサービスは、それを一つの技術として切り離して考えるのではなく、ラリーの中に含まれる配球の一つとしてその後のラリーの組み立てや流れも考えた上で打たれるショットの一つであると考えた方がよい。